

清

せい せい

政

73



『今こそ憲法改正を』



神道政治連盟京都府本部

副本部長 後藤重和

憲法改正の強力なエンジン役でありました安倍元総理が、お亡くなりになりました。

事件が起こった七月八日午前中、わたしはおまつりの奉仕をいたしておりました。正午前におまつりが終わり事務所のパソコンをのぞいた時、突然目に飛び込んできたのが応援演説中に安倍元総理が銃撃をうけ、男性一名が意識不明だというネットニュースでした。大きな衝撃が走ったと同時に、どなたが被害者になられても等しく大変なことではあります。申し訳ないことに思わず被害者が安倍元総理ではありませんようにと願ったのを鮮明に覚えています。その後の成り行きは周知の通りですが、わたしは次の三つの点でショックを受けました。一つ目は、日本国内でこんなことが起こり得るのかと耳を疑うほど、多くの聴衆の面前で白昼堂々と事件が起こったこと。二点目は、その被害者が安倍元総理だったこと。そして三点目は、犯人が犯行におよんだ動機です。報道によれば、犯人は政治的イデオロギーの相違などから第一義的に安倍元総理を狙ったものではなく、いわば逆恨みのような曖昧な動機だったようです。犯行の詳しい動機については今後の捜査または裁判等を待たなければなりません、悔しい限りです。

いずれにしても、安倍元総理は神政連国会議員懇談会の会長であり、ちょうど一年前の七月五日には私ども神政連京都府本部創立五十周年の記念講演をお願いし、ユーモアを交えながらも力強く我が

国の目指すべき方向性と、その実現に向けての道筋をお話しいただきました。また、亡くなるひと月前の本年六月には、約三年ぶりに神政連中央委員会が地方本部の役員を招集して開かれましたが、その前日である十三日には恒例の国会議員懇談会との合同懇親会が開催されました。安倍元総理は席上、会長としてのご挨拶のち会場内の各テーブルを精力的に回られ、今回も京都の議員の先生方と共にスナックにおさまっていただきました。その写真を見直しながら、改めて神政連との結びつきの深さと安倍元総理の喪失感を実感しております。

参議院選挙が終わり、衆議院の解散がなければ向こう三年間、大きな国政選挙はない、いわゆる「黄金の三年」と呼ばれる期間に入りました。世情を見渡せば、ロシアによるウクライナへの侵略を目の当たりにしての国防意識の向上、震災やコロナ禍によって浮き彫りになった緊急事態対応の不備など、憲法改正への国民の意識はかつてないほど高まりつつあります。「黄金の三年」ということは、就任当初より任期中の憲法改正を明言する岸田総理をはじめ、議員の先生方にとりましては直近の選挙に翻弄されることなく、大胆に政策を推し進めることができるということ。安倍元総理のご冥福を心よりお祈り申し上げるとともに、安倍元総理亡きあと、なお私たちはこれまで以上に気を引き締めて憲法改正に取り組まなければならない、と決意を新たにするところです。



令和3年7月5日、当本部50周年記念式典で講演される安倍元首相

追悼

「安倍元首相の国葬儀に参列して」

神道政治連盟会長 打田 文博

安倍晋三元首相の御逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表します。

安倍元首相は、通算約八年八か月の首相在任中、「戦後レジームからの脱却」をスローガンに、困難な課題に果敢に取り組まれ、この国の歩むべき道筋をお示しく下さいました。また、長い間神道政治連盟国会議員懇談会の会長をお務め戴き、その卓越したリーダーシップと実行力で私たち日本国民をお導き戴きましたことに深甚なる感謝の誠を捧げます。

此度の国葬儀に国内外より参集した約四、二〇〇名の方々と共に参列し、安倍元総理に最後のお別れを致しました。また九段坂公園の献花台には二五、〇〇〇名を超える方々が献花に訪れたと聞き及んでいます。我が国の将来を思い並々ならぬ覚悟で困難な課題に果敢に取り組まれた安倍元総理のご功績の偉大

さと、いかに多くの国民に愛され信頼されていたかをあらためて認識した瞬間でした。と同時に、卑劣な暴力で尊い命が奪われたことには今でも深い悲しみと強い憤りを覚えま

す。此度の国葬儀のあり方を巡って賛否様々な意見があつたことは周知の通りです。誰もが自由闊達に意見を開陳できることは大切ですが、国葬儀の時間ですら、会場周辺で参列者の祈りを妨げるかのような活動が行われたことは誠に残念です。葬儀に際しては主義主張の違いを超えて故人を偲び、心静かに見送ることが、日本人として大切にしてきた慰霊のあり方ではないでしょうか。

安倍元総理を失った喪失感は未だ拭いきれません。元総理の御霊の安寧を祈念致しますと共に、そのご遺志を確りと受け継ぎ、今後の国民運動に邁進して参りたく存じます。

ございました!

「漂うことなかれ」

神道政治連盟国会議員懇談会 副幹事長

参議院議員比例(全国)区選出

山 谷 えり子



夏の参議院議員選挙で神道政治連盟のご推薦をいただき、十七万二千六百四十票を獲得し、四度目の議席を預らせていただくこととなりました。

梶本部長はじめ神道連京都府本部皆様のご支援のおかげで「ゼロ打ち」と言われる開票間もなくの八時早々に当確が出て、喜びとともに責任の重さを感じております。

参議院選挙投開票二日前の七月八日に安倍元総理が凶弾に倒れるという、あつてはならない事件が起こってしまいました。

現場となった奈良の遊説の後、京都の吉井候補(当時)の応援に入られ、夕方には埼玉で私の応援弁士として演説をしてくださるはずでもありました。

そのひと月前に開催した「山谷えり子さんを励ます会」では、私のことを「戦う政治家」と言ってくださり、「男系でつな

いできた皇統を守っていくという上においても、いろんなことが起こる可能性があります。一度失ったものは、もう取り戻せないわけですから、その点で最後まで絶対的に戦い続けてくれるのは山谷さんなんだろうと思います」とご挨拶をいただきました。

「失ったものは、取り戻せない」・・・安倍先生を失った喪失感の大きさに打ちひしがれる日々の中で、その言葉の重みをかみしめています。

羅針盤であると同時に抑止力でもあった安倍先生の亡き後、頻発する北朝鮮によるミサイル発射、世界平和、エネルギー問題、経済・金融不安、憲法改正、拉致問題、夫婦別姓、信教の自由など国内外でさまざまな課題が噴出しています。

危機においては、シンプルに基本をしつ

かりと見据えることが大事です。

自民党が野に下った時に「毎日まじめに汗して働き、家族を愛し、地域をよくしたいと願い、日本の未来を信じる保守派の人たちと連携して頑張りたい」と安倍先生が語られていました。

わが党所属議員は、今一度この原点を思い起こさなければなりません。

神道政治連盟国会議員懇談会の会長であり、安倍先生は、全国各地の仲間である私達に種を撒き続けてくださいました。

その種に花を咲かせ大きな実となり、一人ひとりが励み、皆で一丸となって戦っていくために私も先頭に立って働いてまいります。

引き続きご指導ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。

応援ありがとう

参議院議員選挙当選のご挨拶

京都府選挙区
参議院議員 吉井 章



神道政治連盟京都府本部の皆様方には、日頃より温かいご支援ご厚情を賜っており、ますことに心より御礼申し上げます。

また、先の参議院選挙におきましては、皆様方の大きなお力添えのおかげで、トップ当選を果たさせていただくことが出来ました。この場をお借りして重ねて厚く御礼申し上げます。

選挙前からの予想通り、大変厳しい戦いになりましたが、自由民主党の岸田総裁をはじめ、現職閣僚、自民党役員の先生方に連日ご入洛いただき、力強い応援を頂きました。地元でも、西田昌司府連会長を先頭に、京都府議会・京都市会議員ならびに府内各市町村の自民党同志の皆さまにフル稼働でご支援をいただきました。

それでも終盤戦に入ると、「三候補横一

線」という状況であり、安倍晋三元総理が京都に応援に駆けつけて下さることになりました。しかし直前に奈良で凶弾に倒れられ、選对本部にも大変な動揺が走りましたが、「今こそ安倍元総理のご遺志に報いなければならぬ！」と、陣営一丸となって取り組み、最後の最後で勝ち抜くことが出来ました。

八月三日の国会初登院以来、初ものづくしの東京生活ではありますが、参議院では、議院運営委員会、国土交通委員会、北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会に所属し、党では広報戦略局次長、女性局次長、国土・建設関係団体委員会副委員長を拝命し、参議院自民党国会対策委員会にも所属しております。

物価の高騰、円安、緊迫するウクライナ

ナ・ロシア情勢、北朝鮮問題など、刻一刻と変化する諸情勢のもとで、自分たちの国を自分たちで守ることができる外交・安全保障政策や今の時代に即した憲法、各種法整備を急がなければなりません。

まさに国難ともいえる現状を打破すべく、私も京都府選出の国会議員として、まずは経済再生、そして地方創生から日本再生と繋げていけるように力を尽くして参りたいと存じます。

国・府・市町村議会議員の同志とともに、日本の伝統文化を次代に継承すべく、神道政治連盟の皆様と手を携えながら邁進して参る所存です。

結びにあたり、神道政治連盟京都府本部の更なるご発展と皆様方のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます、私のご挨拶とさせていただきます。

令和四年度 活動方針及び活動計画

令和四年六月二十九日開催

第一回代議員会にて承認

活動方針

畏くも天皇陛下におかせられては、「人と人との繋がりを一層大切にしながら、痛みを分かち合い、支えあって、この困難な状況を乗り越えてゆくことを心から願っています。」とのビデオメッセージを寄せられた。新型コロナウイルスの脅威は長期化の様相を呈し、未だ終息の見通しが立たない状況にあるが、国を挙げ感染対策に取り組んでいる日本国民にとつて大変心強く、有り難き限りである。我々は、常に国民に心をお寄せ下さり、国家と国民の安寧を祈られる天皇陛下の大御心を戴き、互いに思いやり助けあう国民精神を発揮して、この試練に立ち向かい、乗り切っていかなばならない。

昨年末に有識者会議が取り纏めた安定的皇位継承に関する最終報告書を国会に提出された。報告書では、今上陛下から秋篠宮皇嗣殿下、次世代の悠仁親王殿下までの皇位継承の流れを「ゆるがせにしてはならない」とした上で、皇位継承とは切り離し、皇族数の確保策について、女性皇族が婚姻後も皇族身分を保持すること、養子縁組により皇統に属する男系の男子を皇族とすること、それでも十分でない場合は皇統に属する男系の男子を法律により直接皇族とすることの三案が具体的方策として示された。過去の小泉内閣、野田内閣時の検討では、顧みられなかつたかつての皇族であった旧十一宮家の男系男子孫を対象に、養子縁組等による皇籍取得の途が示されたことは、万世一系の皇統の正当性を維持する上で画期的なことといえよう。目下、政党内閣派ごとに内容を検討中であるが、政府与党と一部野党の間には、安定

的皇位継承の考え方に大きな隔たりがあり、法整備に向けた議論は難航することが予想される。しかし、改めて万世一系の皇統を護持することの重要性について国民各層への啓発に努めたい。

我が国周辺には、核や迎撃が困難とされる新型ミサイル開発を進める北朝鮮、海洋覇権を自論み我が国の尖閣諸島と台湾などへの領海領空侵犯行為を繰り返す中国、国際社会の秩序を無視してウクライナへの軍事的侵略を決行したロシアの三国が存在し、それらの国々による脅威はますます拡大しつつある。我が国の領域と国民の生命・安全を守り抜くためには、平時のみならず有事における安全保障体制の構築は欠かすことが出来ず、更なる抑止力の強化に向けた新たな装備や防衛策の検討が必須であり、憲法九条はもとより非常時を想定した緊急事態条項の新設など、憲法改正を含めた関連法の整備拡充の必要性は論を俟たない。昨秋の衆議院議員総選挙の結果、憲法論議に前向きな政党が国会発議に必要な三分の二以上の議席を獲得した。憲法改正の実現に向け、改憲機運の醸成に努めるとともに、関係・友好諸団体とも連携し、憲法改正に向けた国民運動を一層強力に展開していく所存である。

議論の再燃が危惧される選択的夫婦別氏（姓）制度をめぐる問題を始め、性的少数者への理解増進法案や同性婚の容認をめぐる問題、また子供の権利保障をめぐる問題等も注視していかねばならない。こうした問題の背景には、特定のイデオロギーに基づき、家族の健全な在り方を否定し、個人の権利自由を過度に追及する人々やグループの存在が指摘されており、我が国の良き伝統に基づく家族と社会生活への悪影響が懸念されている。これらの諸問題の本質について更に理解を深め、その対処にも努めていきたい。

我が国の根幹に関わる諸問題が山積する中、先ずは今夏の参議院議員選挙が行われ、明年四月には統一地方選挙も行われる。同志議員を一人でも多く、国・府・市・町・村政の場に送り出すことが大切であり、我々は今一度、その使命と役割を再認識し、目下の重要課題について、京都府議会・京都市会神道議員連盟、日本会議・京都等、関係・友好諸団体との連携を一層に密にして、連綿と続く我が国の歴史と伝統に基づいた真の国家の再興を目指すべく、以下の通り鋭意取り組むものである。

活動計画

継続事業

①五十周年記念事業

・記念誌の発行
推進事業

①皇室の尊厳護持運動

・『皇室』の購読推進

・万世一系の皇室の伝統を護持するべく、男系男子孫による皇位継承有資格者の確保に向けた国民への理解と世論形成に鋭意取り組む。

②英霊顕彰並びに慰霊

・京都府戦没英霊追悼慰霊祭の斎行（十一月）
・沖繩京都の塔慰霊参拝団による英霊追悼行事の遂行（十二月）
・靖國神社における京都府出身戦没者慰霊祭の斎行（三月）

③会員大会の開催

・（六月）

④選挙に向けた取り組み

・参議院（七月）・宮津市議会（七月）・綾部市議会（八月）・大山崎町長（十月）・大山崎町議会（十月）・伊根町長（十一月）・伊根町議会（十一月）・舞鶴市議会（十二月）・亀岡市議会（二月）・舞鶴

市長（二月）・統一地方（四月）・城陽市議会（五月）・南山城村長（六月）各選挙

⑤憲法改正に関わる情宣活動

・京都選挙区自民党衆参両議員、京都府議会・京都市会神道議員連盟、日本会議京都、美しい日本の憲法を作る京都府民の会と連携した活動を展開する。（未定）
・憲法改正問題の正しい情報を得るための講演会の開催。（未定）
・京都の躰をかたる女性の会と連携し、女性の意識向上に向けての方策に取り組む。

⑥夫婦別氏（姓）制等、家族制度改変問題への対応

・家族の絆を破壊する夫婦別氏（姓）制については要望者には通称使用を促し、社会制度としては同氏制を維持して通称使用の拡大化で対処するよう働きかける。

⑦会報『清政』の発行

（十二月、六月の年二回発行）

⑧機関紙「せいせい瓦版」の発行

（適宜）来る国民投票に向けての憲法改正の必要性を訴えるのには有効的。

⑨広報事業の充実

・時局に応じたホームページの更新。
・『清政』『せいせい瓦版』等、時局問題を敏速に掲載。会員世論の喚起を促す。

・京都の躰をかたる女性の会専用ホームページの随時更新。活動の充実を目指す。

⑩会員の増強

・支部との連携の下、組織拡充・拡大に努め、京都の躰をかたる女性の会とも連携、若い世代や女性を中心とした会員増強を図る。
・政策推進に資するため青年隊組織の充実を図り、問題発生時には必要に応じて早急に対処する。

（二部抜粋）

第二十六回参議院選挙の総括 「絶対大丈夫は大丈夫ではない」

幹事長 藤 森 長 正

先ず反省しなければならないことがある。ご承知の通り参議院選挙では地方区と比例区、二つの用紙に投票しなければならぬ。特に比例区では、毎回、「党名ではなく個人名を書いてください」と訴え続けているが、今回その声は届かなかったようである。また、地方区では私達の同志である山科区の宮司が後援会長を務める市会議員の吉井章氏が出馬されたので、どうしても此方に比重が偏ってしまった。結果は比例区では六年前の得票数の半分となったものの、野党の勢いが衰えてきている昨今の影響を受け、何とか当選。地方区においてもマスコミの途中報道に反して多くの得票数を得ることが出来た。同志二人の候補者を国政に送り出したことを大変嬉しく思う。

公示日の翌日、



早速、山谷えり子候補の選挙カーが京都に入り、先ずは山科駅のロータリーで自民党京都第二選挙区支部長、繁本護氏に第一声の街頭演説をお願いした。これを皮切りに京都府連有志議員各位の連携の下、京都市内各所を遊説、候補者への投票を呼びかけた。夕刻には京都市内各所で責任会場をもち、個人演説会を開催されるのだが、そのバイタリティーには唯々圧倒されるものがあつた。

七月二日夕刻に全国氏子青年協議会第六十回定期大会が市内ホテルで開催され、これに併せて山谷えり子候補者本人が昼より京都入りされるとの報を受けると共に、個人演説会を行うために二会場を設定して欲しいとの依頼を受けた。これに関しては急なことでもあり、私が奉職する藤森神社を会場の一つにする外なかつたが、このような状況下でも、快く会場を提供くださった、賀茂別雷神社の田中宮司を始め職員各位、動員にご尽力くださった京都市会の先生方には大変お世話になり、改めて感謝の意を表したい。

地方区、吉井候補については、最終的には国家公安委員長まで務められた二之湯智氏に比べ、あまりにも認知度が低く、京都市内以外では名前も顔も知らない有権者が殆どであつた。自民党公認候補決定の報に接す

ると同時に、山科区以外での会合に積極的に参加して頂いたが、認知度は今ままで京都選挙区において常に不動のトップ当選を続けて来られた二之湯氏の足元にも及ばないものがあつた。選挙

戦後半に入っても二人区の常に当落線線上におられ、最後まで手を抜けない選挙戦となつたが、結果、著名な立憲民主党の候補者を抑え、見事な成績でトップ当選を果たされたことに敬意を表したい。過去には途中経過においては当選確実との報を鵜呑みにし、選挙戦終盤に手を抜いてしまった苦い経験もあつたが、投票日まで「危ない」と報じてくれたマスコミのお蔭もあつたのかもしれない。

次は統一地方選挙。大変お世話になつている京都府議会・京都市会議員の方々には何のお礼も出来ていない。来る四月の選挙においては神政連一丸となつて応援することが一番の恩返しであると考えている。



第三十五回 会員大会

とき…令和四年六月九日
ところ…リーガロイヤルホテル京都

第一部 式典

去る六月九日、第三十五回神道政治連盟京都府本部会員大会が、多くのご来賓を始め百六十余名が出席して厳粛に開催された。

第一部式典は、稲本副幹事長の司会により、国旗儀礼、後藤副本部長の開会の辞、神宮遙拝、国歌斉唱と続き、梶本部長が「教育勅語」を厳かに奉読した後、参加者全員で綱領を唱和した。式辞では梶本部長が、コロナ禍で様々な制限がある中多くのご出席をいただいたことに謝意を述べるとともに、目前に迫った第二十六回参議院通常選挙について一層のご支援ご協力をお願いしたい旨の挨拶が述べられた。

次に、令和三年度功績者表彰がおこなわれ、昨岡神社中嶋保男宮司が表彰の栄に浴された。次に、来賓が紹介され、神道政治連盟打田文博会長、京都府神社庁田中恆清庁長、京都市会神道議員連盟寺田一博会長より鄭重なる祝辞を頂いた。祝電披露の後、藤森幹事長より会務報告



がなされ、その中で今回の参議院選挙に初出馬される吉井あきら先生ご代理のご令室と後援会長の進藤秀保山科神社宮司が登壇し、決意を述べて支援を求めると万雷の拍手が会場に鳴り響いた。熱気冷めやらぬ中、室川副本部長の閉会の辞、国旗儀礼をもって、第一部式典の部を終了した。

第二部 懇親会

第一部式典に引き続き、会場を移動して第二部懇親会がおこなわれた。

坂本監査委員長の開宴の辞に始まり、公務ご多用の中駆けつけていただいた京都府神道議員連盟近藤永太郎会長（京都府議會議員）よりご祝辞を賜り、続いて日本会議京都田中安比呂会長のご発声により乾杯をおこなった。

コロナ禍での懇親会であるため、隣席との間にはアクリル板が設置され、中嶋事務局長より「乾杯は着席のまま」「挨拶はマスク着用で」「お酌は禁止」など諸注意が告げられたが、数年ぶりの大人数での宴会という参加者もあり、和やかに会は進められた。

楽しい時間は過ぎるのも早く、林秀俊顧問の閉宴の辞により懇親会も幕を閉じ、まだまだ名残惜しみながらも一同散会となった。

（稲本副幹事長）





京都府神道議員連盟 京都市会神道議員連盟

会員の ご紹介



京都府議会
井上重典先生

春と秋には、約八〇〇年頃に創建された地元の「宮一宮神社」の例大祭が厳かに執り行われま

す。

私が帰郷した昭和四十六年当時には地元に住住している氏子の長男が神社を一年間お守りする当番役の「戸渡の儀」がありました。即ち私も地元の「宮一宮神社」当番をお受けしたの

が今から五十年前になります。以後神社の氏子総代の役も受けてまいりました。私が当番を受けた次年度から長男の層が中学生になってしまうので、個人でなく氏子地域の組単位で一年間「神社」当番を受けることにして今日に至っております。

神社の鎮座地域に住住する地域住民は、人的つながりの意義や価値を抜きにしては考えることはできませんでした。神社の境内といえば、子供の遊び場でもあり地域住民のコミュニティの場でもありました。自然の中で生活を営む人々は、災害から地域を守り、五穀豊穡など自然を司る神様にお祈りを捧げてきました。しかし、少子高齢化社会で地域の人口減少と氏子の高齢化も進み、由緒ある神社を今後どのように維持していくかが重要課題であります。

福知山市議会、京都府議会議員を通算二十八年間勤めてまいりました。二十八年前に妻が贈ってくれた掛け軸の文言が「精神一到何事不成」であり、その軸が掛けてある床の間に毎朝礼拝をおこなっております。



京都市会
棕田隆知先生

神道政治連盟京都府本部の皆様におかれましては、世界に誇る日本の伝統や文化を後世に正しく伝えることを目的に、日本らしき、日本人らしさを回復し、私たちが生まれたこの国に自信と誇りを持つことができるよう、神道の精神に基づいて様々な活動に取り組んで頂いておられますことに、衷心より敬意を

表します。

また私たち京都市民の安らかな生活の祈願を賜り、心から感謝申し上げます。

さらには京都市会神道議員連盟の活動にご指導・ご支援を頂いておりますことに、重ねて御礼申し上げます。

現在我が国は、人類を脅かしている新型コロナウイルス感染症。パンデミックや、ロシアの不当なウクライナ侵略に端を発する物価高騰、加えて諸外国との経済政策の不均衡による急激な円安等、まことに厳しい状況にあります。このような社会情勢を凌いで行くためには、先ずは歴史に学び、先達が様々な危機を乗り越えられてこられた智慧を活かして行かなければなりません。

今こそ日本で生まれ育まれてこられた神道、すなわち多種多様な全ての存在と現象を崇敬護持されることを今一度再確認し、神仏習合に象徴されるように、多くの伝来宗教を寛容されてきた歩みに倣い、多様性と差異を認め合う時代社会の顕現を願っております。

令和4年

- 6月2日 周年記念誌担当者会議 4名出席〈於・京都府神社会館〉
 " 綱紀委員会並び財務委員会合同会議 12名出席〈於・京都府神社会館〉
 " 役員会 28名出席〈於・京都府神社会館〉
 " 日本会議京都運営委員会 梶本部長出席〈於・京都府神社会館〉
 " 美しい日本の憲法をつくる京都府民の会企画委員会 梶本部長出席〈於・京都府神社会館〉
 6月4日 自民党京都府支部連合会政経文化会 梶本部長以下3名出席〈於・みやこめっせ〉
 6月7日 参議院議員山谷えり子さんを励ます会 梶本部長出席〈於・東京プリンスホテル〉
 6月9日 第35回会員大会 160名出席〈於・リーガロイヤルホテル京都〉
 " 清政72号発行
 6月12日 伊弉諾神宮本名宮司の神職身分特級昇進を祝う会 梶本部長出席〈於・神戸ベイシェラトンホテル〉
 " 田中明秀 京都市会議長就任 祝賀会 梶本部長出席〈於・ANA クラウンプラザホテル〉
 6月13日 神道政治連盟役員会 梶本部長出席〈於・神社本庁〉
 " 神道政治連盟国会議員懇談会総会・同懇談会 梶本部長・後藤、室川、大垣副本部長・中嶋事務局
 長出席〈於・ホテルニューオオタニ〉
 6月14日 神道政治連盟中央委員会 梶本部長・後藤、室川、大垣副本部長・中嶋事務局長出席〈於・神社本庁〉
 " 神道政治連盟本部長事務局長連絡会 梶本部長・中嶋事務局長出席〈於・神社本庁〉
 6月22日 第26回参議院議員選挙公示
 " 山谷えり子選挙ポスター発送作業 20名出席〈於・京都府神社会館〉
 6月23日 山谷えり子選挙街宣車 京都入り
 6月29日 伊勢神宮崇敬会京都府本部理事会評議員会 梶本部長出席〈於・京都府神社会館〉
 " 令和4年 第1回定例代議員会 65名出席〈於・京都府神社会館〉
 7月2日 山谷えり子 個人演説会 120名出席〈於・賀茂別雷神社〉
 " 山谷えり子 個人演説会 100名出席〈於・藤森神社〉
 " 全国氏子青年協議会 第60回定期大会 梶本部長出席〈於・ホテルグランヴィア京都〉
 7月5日 教化委員会並び関係団体代表者懇話会 梶本部長出席〈於・京都府神社会館〉
 7月6日 自民党京都府連 団体決起大会 関係者 20名出席〈於・リーガロイヤルホテル京都〉
 7月10日 第26回参議院選挙投票日
 7月11日 参議院議員山谷えり子・参議院議員吉井あきら 祝電打電
 7月15日 丹波五支部連合会総会 梶本部長出席〈於・L u. C R E A〉
 7月27日 京都市上支部総会並び総代会総会 梶本部長出席〈於・京都ライイトンホテル〉
 8月15日 戦歿者追悼中央国民集会・靖國神社参拝 中嶋事務局長参列〈於・靖國神社〉
 8月19日 丹後六支部連合会総会 梶本部長出席〈於・舞鶴グランドホテル〉
 8月20日 西田昌司参議院議員政経パーティー 梶本部長以下5名出席〈於・ANA クラウンプラザホテル〉
 8月23日 神道政治連盟役員会 梶本部長出席〈於・神社本庁〉
 " 全国選挙対策委員会 梶本部長出席〈於・参議院議員会館〉
 9月1日 監査委員会 梶本部長以下 8名出席〈於・京都ライイトンホテル〉
 " 役員会 23名出席〈於・京都ライイトンホテル〉
 9月2日 衆議院議員勝目やすし政経セミナー 梶本部長出席〈於・京都国際会館〉
 9月4日 山城四支部連合会総会 梶本部長出席〈於・酔月本店〉
 9月24日 日本会議近畿地区議員連盟総会研修会 梶本部長以下関係者出席〈於・京都パルスプラザ〉
 9月28日 令和4年第2回定例代議員会 56名出席〈於・京都府神社会館〉
 10月3日 京都府神社庁神宮大麻暦頒布始奉告祭 梶本部長参列〈於・京都府神社会館〉
 " 第32回神宮大麻実務者増強推進懇談会 関係者出席〈於・京都府神社会館〉
 " 第20回神宮大麻実務者研修会 関係者出席〈於・京都府神社会館〉
 " 第48回神職大会 梶本部長出席〈於・京都ライイトンホテル〉
 10月18日 乙訓支部神宮大麻暦頒布始奉告祭並び総代会総会 梶本部長出席〈於・長岡天満宮〉
 10月21日 第28回全国戦歿学徒追悼祭 梶本部長参列〈於・若人の広場〉
 11月16日 京都府戦没英霊追悼慰霊祭〈於・リーガロイヤルホテル京都〉
 " 清政73号発行
 11月17日 京都府神社庁新嘗祭〈於・京都府神社会館〉
 " 京都府神社庁事務連絡会〈於・京都府神社会館〉

表紙写真「お印」の紹介

前号より、表紙写真では皇族方の「お印」をご紹介しています。

皇族方の「お印」は「御印章」ともい、皇族の方々お一人おひとり身の回りの品々を区別するために、目印として付けられる、いわばシンボルマークのようなもので、男性は樹木、女性は花の中から選ばれることが多いですが、上皇陛下のように漢字が選ばれる事もあります。

今号は皇后陛下のお印「ハマナス」です。ハマナスはバラ科の植物で漢字では「浜梨」と書き、初夏に鮮やかなピンクの花を咲かせ、北海道の道花にもなっており、今上陛下がとくに愛でられたことから、皇后陛下のお印になったと言われています。

シーボルトはこの種子をヨーロッパに持ち帰り、品種改良され世界中に広がったそうです。

時事一滴

副幹事長 南坊城 卓英

二月二十四日から続くロシアのウクライナ侵攻は、未だ趨勢が定まらない。露軍は当初、半日で首都キーウ制圧を予想していた。しかし、その思惑とは裏腹にウクライナ政府は四月にはキーウ州全域を解放。国を守る気概を持ち侵略者から今猶戦い続けるウクライナ国民には敬意を表したい。今回の争乱では、核兵器を「持つ国」と「持たざる国」が顕著に現れたと感ずる。危機に瀕するウクライナに対する西側諸国の支援は経済・物的に留まる。この現状から鑑みるに、核恫喝を繰り返す隣国が多数存在する我が国も他人事ではない。所謂「核の傘」は本当に機能するのか、はたまた憲法前文に記された、平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼するのかどうかは定かでない。

七月に凶弾に斃れた安部晋三神道政治連盟国会議員懇談会会長には哀惜の念に堪えない。氏の功績は枚挙にいとまがないが、特に外交・安全保障の分野では我が国を再び大国に押し上げたと言っても良いだろう。「自由で開かれたインド太平洋」構想を打ち出し、その中核機能として日米豪印（クワッド）の創設を主導した。目指したゴールへは道半ばであったが、その遺志は受け継がれているものと信じたい。

九月三十日、ロシアの一方的なウクライナ四州併合を非難する国連安保理決議が、ロシアの拒否権行使で否決された。先の大戦時に創設された連合国（United Nations）邦訳「国際連合」の憲章では、我が国を含む旧枢軸国は現在も敵国である。傍目に見ても機能不全に陥っている組織を見ると、七十年を経てもお戦後レジームからの脱却には程遠い。



神道政治連盟京都府本部会報

清政 第73号

発行日：令和4年11月16日
発行所：神道政治連盟京都府本部
〒616-0022
京都市西京区嵐山朝月町68-8
電話075-863-6677
編集協力：テンセイ・コモンズ
表紙写真：皇后陛下のお印
「ハマナス」